

7月22日（火）大会開会式



7月22日午前10時より、第16回 ICA 大会開会式が行われました。写真中央は、開会式において開会のゴングを鳴らすマレーシア文化芸術遺産大臣。

大会会場には展示エリアも設置され、各国の国立公文書館やアーカイブズ関連団体・企業等によるブースが設けられました。開会式終了後は大勢の参加者でにぎわいました。



EASTICA ブースでマレーシア文化芸術遺産大臣（左端）を迎える菊池館長



書籍コーナー



小中学生も参加したキッズ・メモリアル

7月21日（月）専門機関視察



収蔵庫内の様子



スタッフの説明に聞き入る参加者たち



マレーシア国立公文書館全景

7月21日、大会参加者は専門機関を訪問しました。午前の部ではマレーシア国立公文書館を見学しました。また、午後の部では第4代マハティール首相記念館及び初代ラーマン首相記念館を見学しました。



受付



閲覧室



修復室



修復のデモンストレーション

マレーシア国立公文書館には、閲覧室や修復室のほかに、展示室や映像ホール、食堂も併設されていました。



映像ホール



日本に関するパネルも



展示室

7月23日（水）



講演する石井米雄アジア歴史資料センター長

7月23日午前10時より、当館主催のセッション「日本におけるアーカイブズの発展」を開催しました。



講演する内藤和寿氏



セッション会場の様子



質問に答える講師陣

写真は左から、司会（コーディネーター）をつとめられた後藤仁神奈川大学教授、石井米雄アジア歴史資料センター長、保坂裕興学習院大学教授、内藤和寿外務省外交史料館課長補佐、遠藤茂神奈川県立公文書館行政資料課副主幹。



増田勝彦昭和女子大学教授による講演を熱心に聞く参加者たち



手本を見せる増田教授

7月23日午後2時30分からは、「日本における資料修復の技術」と題して、ワークショップが行われました。増田勝彦昭和女子大学教授による講演の後、各国からの参加者は、裏打ちや四つ目綴じなどの伝統的な技術を体験しました。

7月24日（木）



挨拶をする菊池光興館長



質疑応答の様子

7月24日午前10時から、セッション「電子政府化の進展と電子記録管理」を開催しました。平成19年10月のEASTICA 東京会合を踏まえたこのセッションには100名以上の参加者が集まりました。



会場は各国からの参加者で満席に



講演する杉本重雄筑波大学教授

写真（下）は、左から司会をつとめた Simon CHU EASTICA 事務局長、講師の WANG Liangchen 中国国家档案局技術部長、KWAG Jeong 韓国国家記録院アーキビスト、中島康比古国立公文書館業務課利用係長、杉本重雄筑波大学大学院教授。





挨拶をする高山正也国立公文書館理事



講演する伊藤正直東京大学経済学部教授



講演中の仲本和彦氏

7月24日午後2時30分からは、セッション「危機とアーカイブズ」を開催しました。



写真（上）は、左から高山正也国立公文書館理事、伊藤正直東京大学経済学部教授、杉山伸也慶応義塾大学経済学部教授、山下貞麿日本レコードマネジメント(株)コンサルタント代表、仲本和彦(財)沖縄県文化振興会公文書専門員。

7月25日（金）ICA 年次総会



年次総会の様子



年次総会でフェローに選ばれたミコレツキー前会長、菊池前副会長、ジャミル前副会長、アルバダ前事務総長

交流



7月23日に行われた「マレーシアン・ナイト」



ウィルソン会長と談話する石井センター長・菊池館長